

様式 4

令和 2 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立境港総合技術高等学校

校 長 田中 宏明

評 価 日	令和 3 年 3 月 4 日 (木)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ア 基本的生活習慣の確立 ⑦遅刻者の減少が目的値よりも高く、評価できる。 ④学校に訪問すると多くの生徒が挨拶をしてくれて、自然と声が出ていて、評価できる。 イ 基礎学力の向上 ⑦海技士試験について、4 級より上級の試験を目指し、3 級海技士に 3 名が挑戦し、全員が筆記試験合格した意欲的な生徒がいて嬉しく思う。 ④課題研究発表会を DVD で視聴し、それぞれの専門分野での深い学びに、成果として現れている。高評価です。 ウ キャリア教育の推進 ⑦コロナ禍ではあったが、感染予防対策として工夫したインターンシップが実施されてよかった。 エ 地域との連携と情報発信 ⑦コロナ禍での動画配信によるアイデアと熱意が頼もしい。閉塞域に負けることなく前進する取り組みに勇気づけられた。評価できる。 ④コロナ禍ではあったが、感染防止対策をし、地域・保育園との合同避難訓練ができた。また、ボランティア活動も工夫して参加していた。 ⑦コロナ禍ではあったが、土曜授業等事業や学校独自事業では、工夫をして実施できたものもあり評価できる。 ⑤実習、行事、各科の取り組み等がマスコミに取り上げられ、頑張っている様子がうかがわれた。 オ 業務改善の取り組み ⑦長時間勤務者の解消について、時間外業務が月 4 5 時間以内、年 3 6 0 時間以内の目標値を、ほとんどの教員が達成している。 (2) 説明・公表について ホームページに、自己評価表（最終）及び第 2 回学校関係者評価報告書を公表する。		① 達成率等の数値や経過達成状況をわかりやすく記載していく。 ② 専門的な資格取得の具体的な目標数値を記載する。 ③ コロナ禍ではあるが、感染予防対策を工夫し、各科の特徴を生かした地域との交流を今後も継続・推進していく。 ④ 地域との連携を更に深め、生徒の経験値を上げ、地域活動に貢献できる人材育成を図る。

2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について

コロナ禍で、多くの事業が行われなかった。しかし、実施した事業については、鳥取県立学校版予防ガイドブック（新型コロナウイルス感染症）および鳥取県版イベントガイドラインに沿って実施し、感染予防対策を工夫しその取組の様子が、新聞やテレビでたくさん報道されている。実施できなかったものについては、リモート等を使用して交流をするなど、地域に根ざした専門高校として各事業を有効に活用し、地域の人材育成、活性化に大いに貢献して欲しい。

研修旅行が実施されなかったことは残念である。

3. 取組改善のための提言

- (1) コロナ禍で、学校運営協議会が2回とも書面での資料等の提示による意見となり、評価についての根拠が不明な点が多々あった。
- (2) 来年度は、コロナ禍で工夫した地域交流やリモート等を使用しての交流を期待したい。
- (3) 企業や事業所との連携は有意義な取組であるので、継続してさらに深めながら充実した取組として欲しい。

地域との連携や特色のある教育実践をメディアを通して発信し、学校教育の活性化を図る。

特に、中学校へ本校卒業生の声や活躍等の発進方法を工夫する。

- ① 学校運営協議会の会議を実施する。
- ② コロナ禍で工夫した地域交流やリモート等を使用した交流をさらに工夫して、安全に実施する。
- ③ コロナ禍ではあるが、インターンシップや事業所見学において、感染予防対策の工夫をして、事前事後指導を含め経験値を上げ、職業観・勤労観を育成する。